

# 森林・林業に関する意識調査

—奈良井宿を訪れる観光客を対象として—

奈良井・庶務課庶務係 ○江 尻 勲  
嘉 藤 康 則  
厚生係 藤 原 武 男  
労務係 長 島 源 一

## 要 旨

森林・林業に対して、国民がどのように認識をしているかを知り、今後の業務の参考に資するため奈良井宿を訪れる観光客を対象として、アンケート調査を行い考察したものである。

## はじめに

最近の森林・林業をめぐる情勢は、内需拡大策による木材需要の回復等明るい一面は見られるものの、円高の進行等に伴う外材、代替材の進出、引き続き木造率の低下など依然として厳しい状況の中で、近年林産物の供給、国土の保全、水資源のかん養のほか、自然環境の保全、保健休養の場の提供など森林の有する多面的機能の高度発揮に対する国民の要請が高まってきている。

これらの要請に応えるためには、林業にたづさわる人々の努力が必要であることは、もちろん広く国民が参加した森林づくりが大切であり、昨年3月に「緑と水の森林基金」が設置されたところである。

このような状況の中で、国民が森林・林業などについてどのように認識をしているかを知り今後の業務の参考とするため、13項目にわたるアンケート調査を実施した。

## I 調査方法

### 1. 対象者

奈良井宿を訪れる観光客とした。

当奈良井宿は中山道69次の34番目の宿場として、木曾11宿中最も繁栄した宿場町であった。現在は観光地として年間を通じて、全国各地、東京・大阪・名古屋をはじめ隣県、遠くは宮城・岡山県から約25万人が当奈良井宿を訪れており、全国の幅広い地域からの声を聞くことができた。

### 2. 実施場所

奈良井宿の中心にある当署の庁舎前で行った。

### 3. 調査期間

63年9月28日から10月27日まで1ヶ月の間で実施した。

### 4. 回答者

285人で、男性140人、女性145人で、年齢は20歳代から60歳以上までを5段階に区分して幅広い年齢層とした。50歳以上が、全体の55%を占めている。

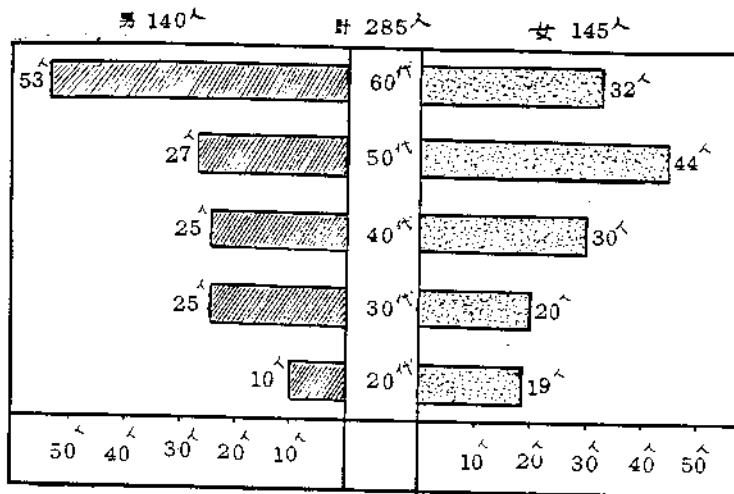


図-1 回答者の男女別・年代別

## II 調査結果

アンケートの結果を図表により説明する。

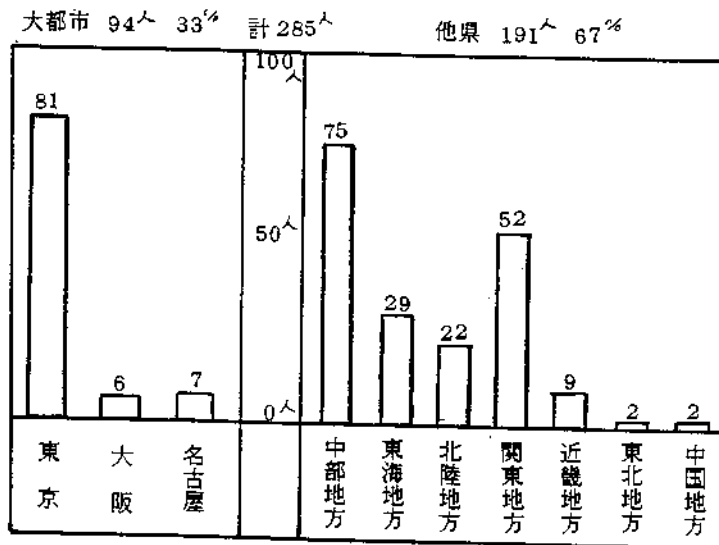


図-2 どちらから来ましたか

### 1. どちらから来ましたか。

回答者の居住地を大都市と他県に区分した。

大都市……東京・大阪・名古屋 94人 33%

他 県……中部・東海・北陸地方ほか計17県 191人 67%

### 2. 木曽路へ今までに来たことがありますか。

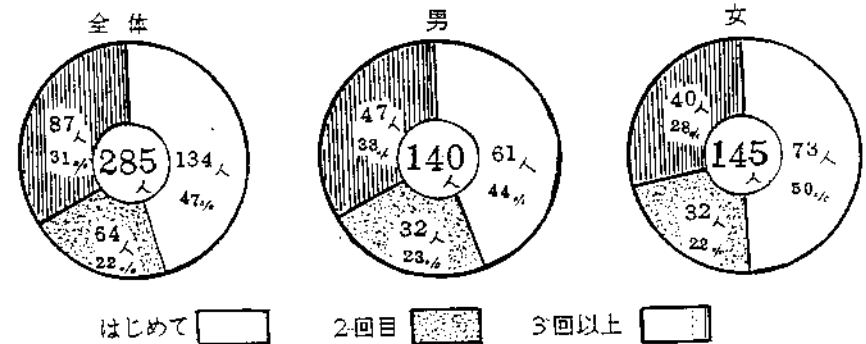


図-3 木曽路へ今までに来たことがありますか

初めて………47%

2回目………22%

3回以上………31%

初めて訪れた人が最も多く半数近くを占めている。このことは、毎年12万人近くの新しい人が訪れることになる。

### 3. 当地に来た動機をお聞かせ下さい。

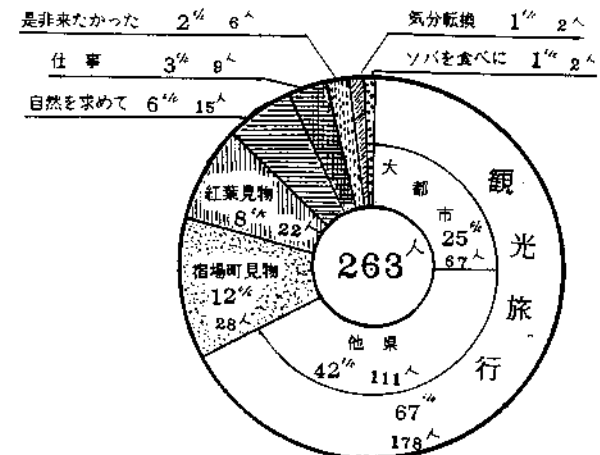


図-4 当地に来た動機をお聞かせ下さい

回答者を動機別に分けて見ると、観光旅行が178人67%と過半数を占めている。又、観光旅行以外では、宿場町見物、紅葉見物、自然を求めて、仕事、是非来なかった、気分転換、ソバを食べべにと様々である。

4. 木曾谷の山と緑に接して、どう思いますか。

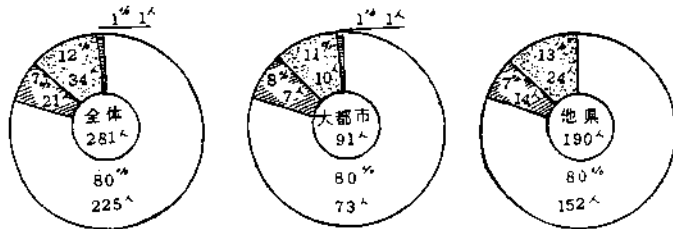
項目	人	%	
		50	100
山の景色が素晴らしい	186	76	
すがすがしい気分	16	7	
緑の豊かさ	15	6	
いつまでも残して欲しい	11	5	
ヒノキの山を見て先人の努力を見た	6	2	
空気がうまい	5	2	
心の安らぎをおぼえる	5	2	
計	244		

図-5 木曾谷の山と緑に接して、どう思いますか

木曾の山々が、丁度紅葉の時期だったのか「山の景色が素晴らしい」が76%と高い割合を占め、以下「すがすがしい気分」「緑の豊かさ」「心のやすらぎをおぼえる」など我が国の経済社会が量的な物の豊かさを求める時代から、質的な心の豊かさを求める時代へ移行するなかで、森林に対する国民の要請が多様化していることが伺える。

この中で、「ヒノキの山を見て先人の努力を見た」「いつまでも残してほしい」との回答もあり、特に印象深いものがあった。

5. 森林の恩恵を受けていると思いますか。



思う □ 思わない ■ わからない ▨ その他 ▩

図-6 森林の恩恵を受けていると思いますか

森林は、木材の供給、国土の保全、水資源のかん養、レクリエーションの場の提供、新鮮な空気の供給等多面的機能を発揮しているが、「恩恵を受けている」と回答した方は、全体、大都市、他県とも80%の高率を占めている。このことは、森林が無くてはならないものであるとの認識がかなり深まっていることが伺える。

6. あなたは、森林・緑に何を求めますか。

項目	%	%			
		10	20	30	40
きれいな空気と水	全	33			
	大	32			
	他	34			
水資源の確保	全	23			
	大	25			
	他	22			
国土の保全	全	21			
	大	18			
	他	23			
木材生産	全	14			
	大	15			
	他	15			
レクリエーション	全	5			
	大	5			
	他	4			
山菜・きのこ	全	4			
	大	5			
	他	2			

図-7 あなたは、森林・緑に何を求めますか

きれいな空気と水が33%、以下水資源の確保、国土の保全の割合で上位共に公益的な機能を求めているのに対し、国民生活に欠くことの出来ない「木材生産」は14%と低い。これも前に述べた「山と緑に接して」同様に森林に対する要請が多様化していることが伺える。

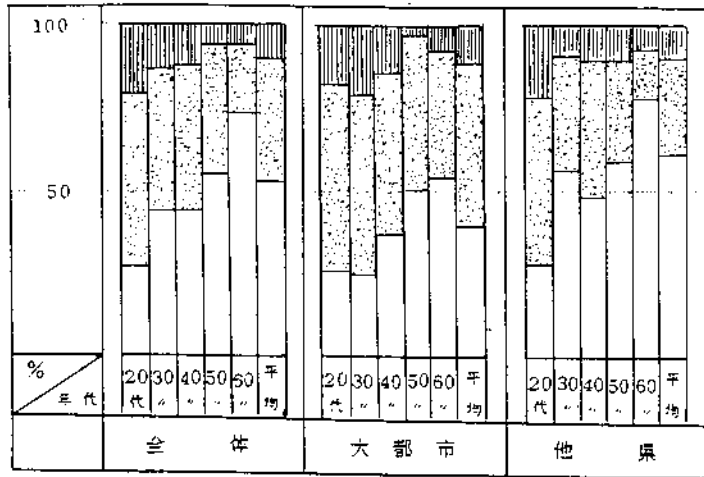
この中において、木材生産が14%と低いことは、私達林業に従事するものにとって、一寸さびしい感じがするとともに今いかに林業経営が、むずかしいかが伺える。

7. 森林・緑を造るには、いま山村の人々が大変苦勞していることを知っていますか。

「知っている」の回答が53%と約半数で30~60代では、44~73%を占めているが、20代の若年層では28%と半減している。又、大都市と他県を比較すると、大都市が他県より各年代共若干認識が薄い。

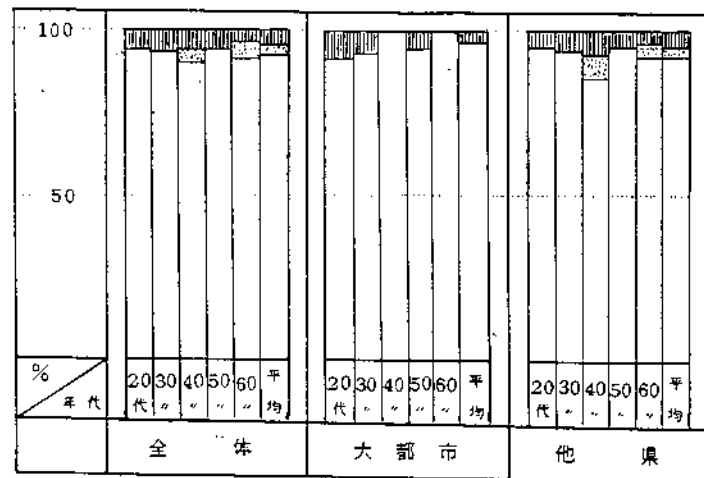
8. いま、森林を守り育てて行くためには山村の人々の努力のみではなかなか難しい状況にあり、国民全体の方で森林を守り育てて行かなければならないと言われておりますが、どう思いますか。

「そのとおりと思う」の回答は、全体93%と高く、大都市、他県そして各年代とも90%以上を占めており、我々林業マンとして心強いものが感じられる。



ア. 知っている (白) イ. 少し知っている (点線) ウ. 知らない (縦線)

図-8 森林・緑を造るには、長い年月を要するもので、また木材価格が長期にわたって低迷しているなど、いま、山村の人々が大変苦労していることを知っていますか。

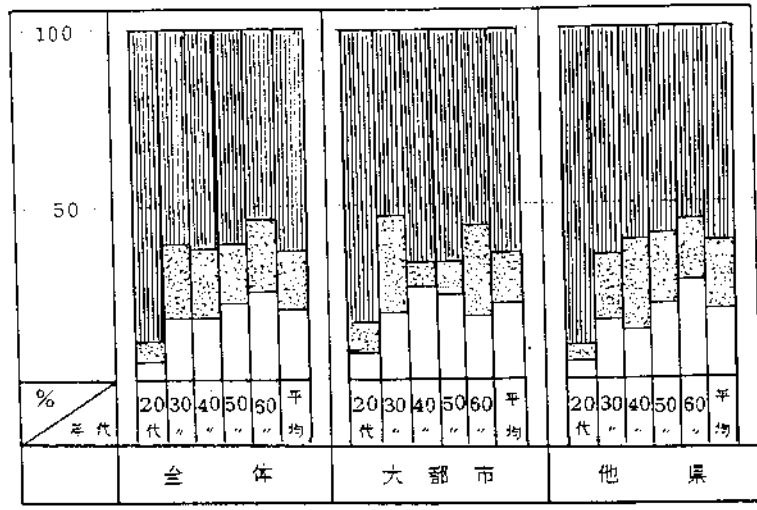


そのとおりと思う (白) 山村の人々がやればよい (点線) わからない (縦線) その他 (横線)

図-9 いま、森林を守り育てて行く為には、山村の人々の努力のみではなかなか難しい状況にあり国民全体の力で森林を守り育ててゆかなければならないと言われておりますが、どう思いますか。

この数値は、このアンケートを進める中で理解が深まった面もあると思うが、これだけの多くの人が理解を示していることは、大変心強いものと思われる。

9. 分収育林の制度を知っていますか。



ア. 知っている (白) イ. 少し知っている (点線) ウ. 知らない (縦線)

図-10 「分収育林」の制度を知っていますか。

林野庁が、59年からはじめた分収育林制度は好評のようであるが、全体各年代を通じて20%前後と認識が薄く、大都市他県と同様の割合となっている。

昨年暮、朝日新聞にも掲載されていたが今後も新聞はもとより宣伝効果の大きいテレビなどを通じて、大いにPRし緑に接する機会の少ない大都市の人々が、分収育林を通じて森林林業に対する理解が求められたらと思う。

なお、2、3件年配の方から、くわしく説明してほしいとの要望があり、パンフレットなどによりお話をしてお話を協力をお願いした。又、他局で分収育林に参加されている方も1件あった。

10. 我が国では、国産材と輸入材とを扱っていますが、あなたが使用するとしたらどちらが好きですか。

30代以上では、80~95%近く国産材を希望しているが、20代の若年層では「どちらでも良い」が約半数近くを占めていて、あまり関心の無いことが伺える。

11. 自分の住む家を建てるとしたら、どんな家を望みますか。

国産材の木造住宅として94%と圧倒的に多くを望んでいる。30代以上ではほぼ100%近く木造を望んでいるのに対し、20代では74%と若干低く、新建材が20%を占めている。又、大都市他県でも30代以上が90~100%木造を望んでおり、いかに木の香りと温もりの感じられる木造住宅を

好まれているかが問われる。

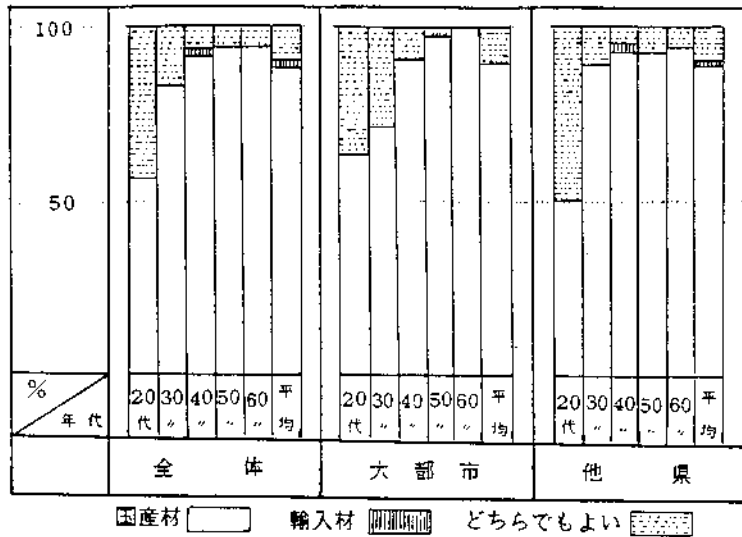


図-11 我が国では、国産材と輸入材(外国産材)とを扱っていますが、あなたが使用するとしたら、どちらが好きですか。

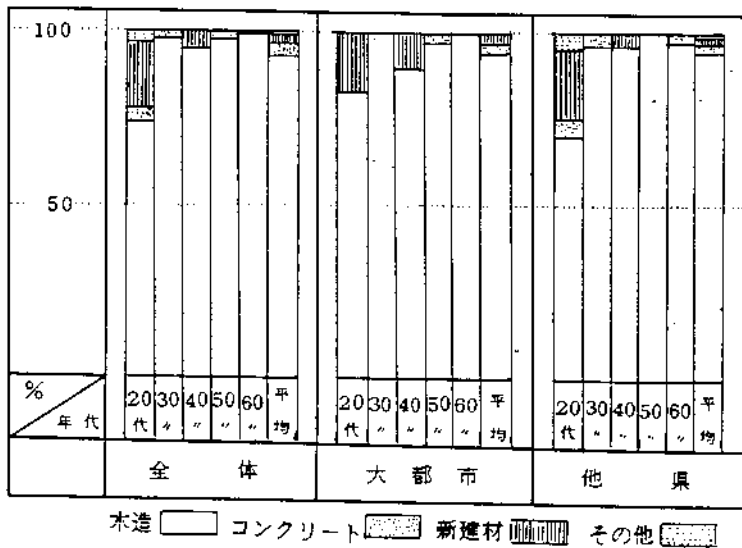


図-12 自分の住む家を建てるとしたら、どんな家を望みますか。

12. 「緑と水の森林基金」の募金を始めていることを知っていますか。

全体では、4人に1人の割合の25%と認識が薄い。なお、大都市では全体より若干低く、他県は少々全体より上廻っている。

まだ、始めたばかりで国民各層まで広くPRされていないこともあると思われるが、今後更に理解と協力を得るよう努めていかなければならない。

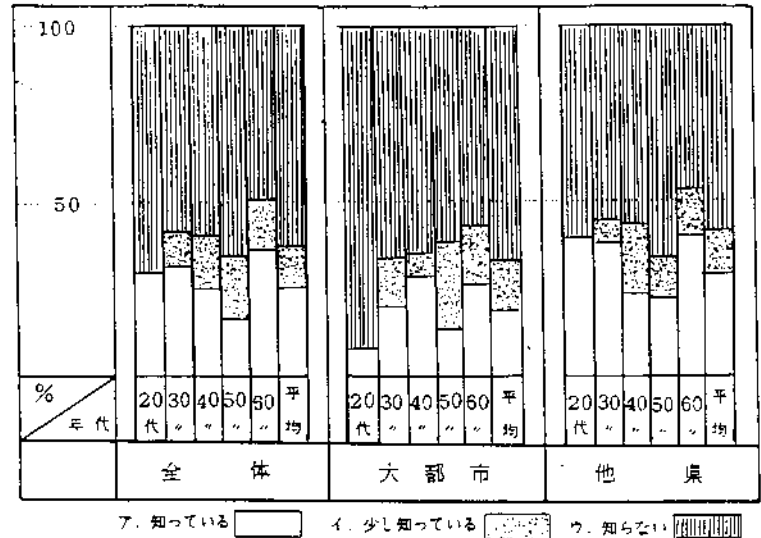
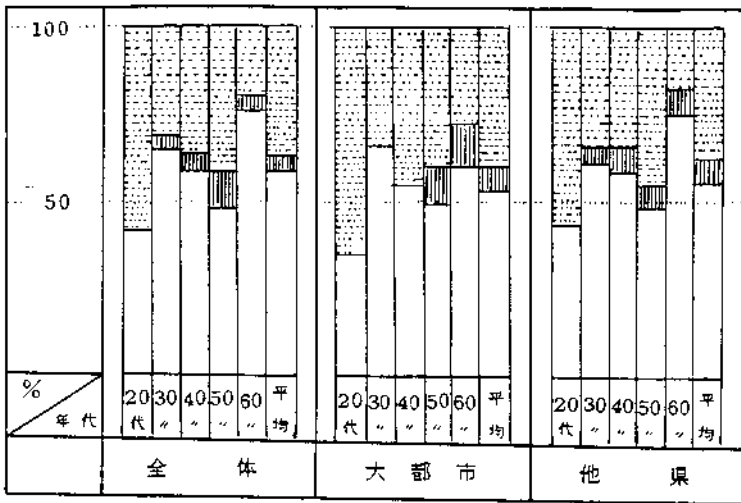


図-13 「緑と水の森林基金」の募金を始めていることを知っておりますか。

13. あなたは、この「募金」に参加しますか。

先に述べた「緑と水の森林基金」については25%と認識も薄いことから、この募金参加もあまり積極性も見られず、57%と低い。25%から57%へと増えたことは、森林募金をはじめていることを知れば参加する人も増え、理解を深めれば協力を得られることが出来ると思われる。又、このアンケート実施中には机の横にドングリちゃんと並んで募金の協力を依頼した。当初アンケートをお願いしながら募金をお願いすることを、ちゅうちょしていたが、途中から募金協力の要請を行ったところ多くの人が、心良く応じてくれた。中には、日本の緑の造成のために頑張ってくださいと、千円札を入れてくれた人も何人かいた。



ア. する イ. しない ウ. わからない

図-14 あなたは、この「募金」に参加しますか。

### Ⅲ 考 察

この調査結果からして、森林に対する要請が多様化していることが、伺えるとともに、森林の大切さもかなり理解されている。

しかし、国産材の木造住宅を望みながら森林に木材生産の役割をあまり求めない。森林の恩恵を受けていると認め、又、森林の育成について、国民全体で協力しなければならないといいながら、国民参加の森林づくりの「緑と水の森林基金」「分収育林」には、関心の薄いことが伺われる。特に20歳30歳代の若い人々にこの傾向が大きい。

今後更に森林林業の大切さ等について、国民各層に広く理解と協力を求めていく必要があると思われる。特に21世紀を、担う若い人々に、いかに理解を深めさせるかが課題と思われる。

先に述べた、分収育林における新聞広告のように、中央等において新聞をはじめ、テレビ等により緑の重要性のPRを検討していく必要がある。

### お わ り に

当署としても、従来から地域のイベント等への積極的な参加、小中学校生徒を対象とした森林教室、地元との共催による植樹祭、小木工品の即売会等を通じて、PRを行なっており、又、今回のアンケート実施についても、間接的に森林林業のPRになったと思われる。

今後においても、全国の巾広い人々が一年中訪れるという地の利を活かし、又、マスコミに記事提供を積極的に行うなど、創意工夫をこらし、森林林業のPRに努めたいと考えている。